



幼學綱要

四

9
1064
4



門 口
號 1046
卷 4

幼學綱要卷之四

仁慈第九

天地ハ生物ヲ以テ心トス。人其理ヲ受テ生
ル。故ニ亦天地ノ心ヲ以テ心トス。所謂ル人
ニ忍ビザルノ心是ナリ。此心ヲ擴充シテ事
物ニ及ボスヲ仁慈ノ道トス。人苟モ此心ヲ
失ハバ。理ニ背キ道ニ違ヒ。以テ自立ツコト
無シ。誠ニ能ク仁慈ニシテ後。以テ人ト爲ス
可シ。故ニ曰ク。仁ハ人ナリ。

○易曰。君子體仁足以長人。



○書曰。雖有周親。不如仁人。
 ○詩曰。豈弟君子。民之父母。
 ○大學曰。為人君。止於仁。
 ○又曰。為人父。止於慈。
 ○論語曰。汎愛衆而親仁。
 ○又曰。君子去仁。惡乎成名。君子無終食之間違仁。
 造次必於是。顛沛必於是。
 ○又曰。當仁不讓於師。
 ○又曰。苟志於仁矣。無惡也。
 ○書曰。民罔常懷。懷于有仁。

○孟子曰。仁也者。人也。
 ○又曰。惻隱之心。仁之端也。
 ○又曰。仁者無敵。
 ○垂仁天皇二十八年。倭彥命薨。近習ヲ聚メテ
 殉ト為ス。天皇聞テ之ヲ惻ミ。群卿ニ詔シテ曰ク。
 生テ愛スル所。死シテ殉ト為スハ。亦慘ナラズヤ。
 古ノ遺風ト雖モ。曷ゾ遵用ス可ケム。今ヨリ之ヲ
 止メヨ。皇后崩スルニ及テ。野見宿禰ノ議ヲ用テ。
 詔シテ土ヲ以テ物ニ像リ。用テ殉ニ代ヘ。立テ永



野見宿禰
殉代助
土物を造了

楓湖敬忠



制ト爲ス。野見ヲ以テ土部職ニ任ズ。

○仁徳天皇難波ニ都ス。即位ノ四年。臺ニ登リテ遠望ス。烟氣域中ニ起ラズ。天皇五穀登ラズ。百姓窮乏ニシテ。家ニ炊ク者無キコトヲ知リ。詔シテ課役ヲ除クコト三載。躬節儉ヲ行フ。是後宮垣頽レテ造ラズ。茅茨壞レテ葺カズ。風雨時ニ順ヒ。五穀豐穰ナリ。三年ニシテ。百姓殷富。歡聲路ニ盈ツ。七年ノ夏。天皇臺ニ登リ。烟氣多ク起ルヲ見。皇后ニ謂テ曰ク。朕既ニ富メリ。復何ゾ憂ヘム。皇后曰ク。今ヤ宮室朽廢シテ。暴露ヲ免レズ。何ゾ富メリ。

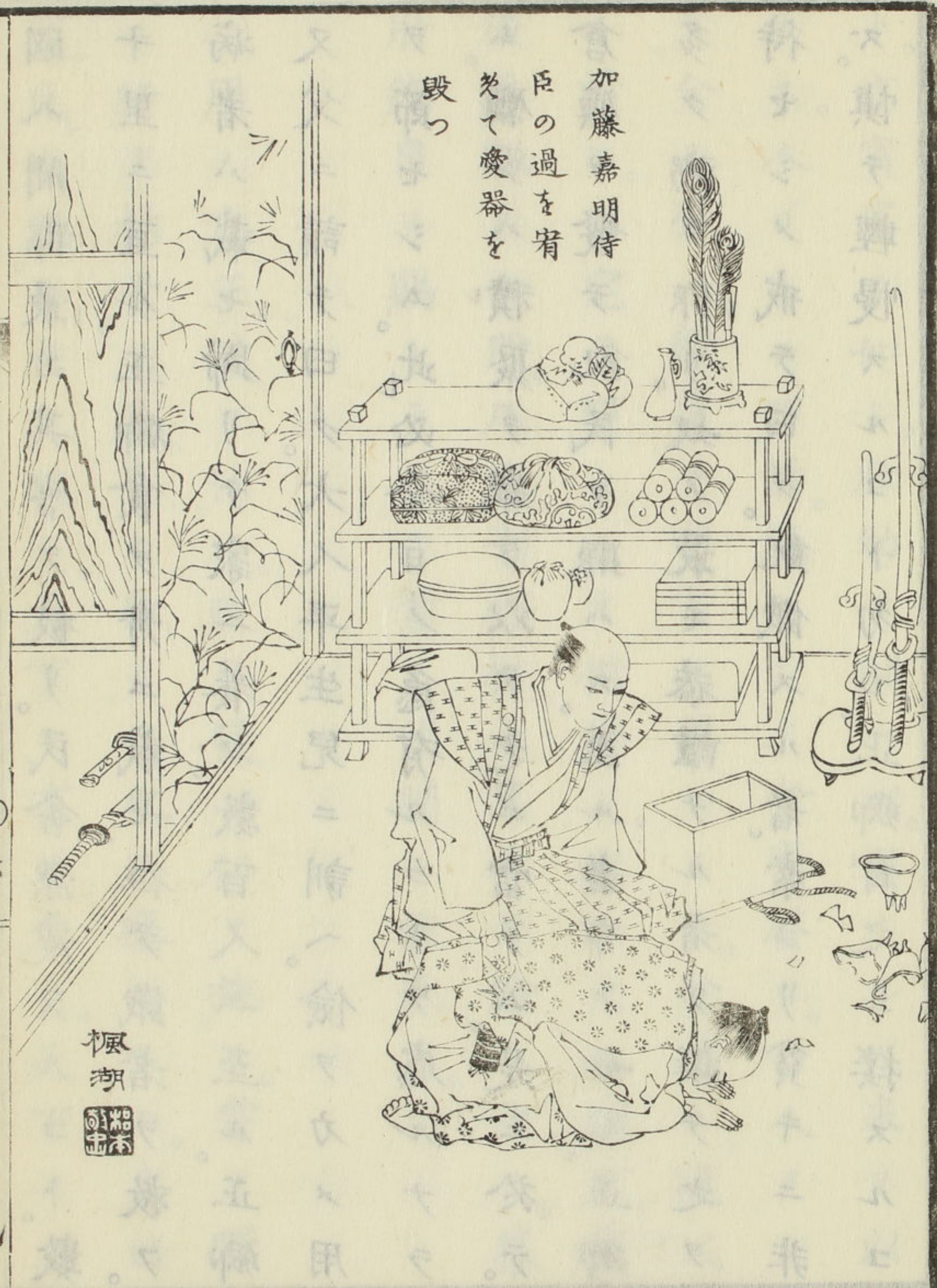
ト謂ハム。天皇曰ク。君ハ百姓ヲ以テ本ト爲ス。百姓貧シケレバ。則朕貧キナリ。百姓富メバ。則朕富ムナリ。是歳秋。諸國稅調ヲ貢シ。以テ宮殿ヲ修理セムコトヲ請フ。聽サズ。十年ノ冬。始テ課役ヲ科シ。以テ宮室ヲ造ル。是ニ於テ。百姓老ヲ扶ケ。幼ヲ攜ヘ。先ヲ爭テ來リ赴キ。日夜營作ス。未幾クナラズシテ。宮室悉ク成レリ。
○醍醐天皇慈仁ニシテ。民ヲ愛ス。寒夜親ラ御衣ヲ脱シ。以テ民間ノ凍餒ヲ省ス。群臣奏對スル毎ニ。必頽ヲ和ゲテ之ニ接ス。嘗テ曰ク。威嚴外ニ見

ハルレバ。盡言ヲ為シ難シ。朕人ヲ待ツ毎ニ必辭
 色ヲ假シ。以テ啟沃ヲ求ム。
 ○朱雀天皇。政寬仁ヲ尚ブ。議者以テ寬ニ過タリ
 ト為ス。藤原忠平嘗テ之ヲ奏ス。天皇曰ク。朕之ヲ
 先帝ニ聞ケリ。公ノ先人曾テ言フ。政ハ琴ヲ張ル
 ガ如シ。大絃急ナレバ小絃絶ユト。朕若嚴急ナラ
 バ。下民何ゾ堪ヘム。
 ○加藤嘉明ヨシアキラ智勇兼ネ備リ。下ヲ待ツニ恩有リ。嘗
 テ客ヲ饗スル時。愛スル所ノ甕爵十ヲ出ス。侍臣
 誤テ其一ヲ破リ。恐惶罪ヲ待ツ。嘉明聞テ之ヲ召

テ曰ク。人孰カ過無カラムヤ。汝以テ罪トナスコ
 ト母レ因テ九爵ヲ取リ。盡ク之ヲ毀テ曰ク。吾以
 テ怒ヲ泄スニ非ズ。此器ノ存スル。睹ル毎ニ輒チ
 曰ハム。某年某月日。某其一ヲ破リシト。既ニ此器
 ヲ以テ人ノ過ヲ致セリ。而シテ又其名ヲ後來ニ
 遺スハ。甚不可ナリ。故ニ今其本ヲ絶チ。且以テ自
 戒ムルノミ。是ヨリ復器物ヲ愛セズ。
 ○奥貫正卿オクノキ正助ト稱シ。友山ト號ス。武藏國久下
 戸村ノ富農ナリ。少クシテ學ヲ好ミ。江戸ニ游ビ。
 歸リテ生徒ニ教授ス。寬保中。關東大水アリ。武藏



加藤嘉明侍
臣の過を宥
めて愛器を
毀つ



楓湖
[Seal]

國入間郡。最モ其害ヲ被リ。民舍漂没スルコト。數十里ニ亘ル。正卿食ヲ舟ニ載セ。往テ餓者ヲ救フ。病者ハ載セ歸リテ家ニ養フ。數百人ニ至ル。正卿又父ニ請テ曰ク。大人平生兒ニ訓ヘ。儉ヲカメ用ヲ節セシム。此必今日ノ急有ルコトヲ慮ルナラム。願クハ積聚ヲ舉テ以テ之ニ當テム。是ニ於テ。倉廩ヲ發テ飢民ヲ賑ハス。至ル者市ノ如シ。正卿多ク粥ヲ作り。奴ノ最モ恭謹ナル者ヲ撰テ之ヲ待セシメ戒テ曰ク。飢餓スル者。素ヨリ貧キニ非ズ。慎テ輕慢スルコト勿レ。正卿自之ニ接スルコト。

ト。亦賓客ノ如シ。壯幼ヲ問ハズ。與フルニ米ヲ以テス。人ゴトニ四升。既ニシテ倉廩罄ク。乃人ヲシテ金ヲ齎シ。穀粟ヲ四方ニ買ハシム。金盡ク。復父ニ請ヒ。田宅ヲ質トシテ借貸シ。以テ之ニ繼グ。前後救賑スル所。凡四十八村。十萬六千餘人ナリ。幕府錢帛ヲ賜ヒテ之ヲ賞シ。門閭ニ旌表ス。
○周ノ文王。岐ヲ治メ。政ヲ發シ仁ヲ施ス。嘗テ野ニ行テ枯骨ヲ見。吏ニ命ジテ之ヲ瘞メシム。吏曰ク。比主無シ。文王曰ク。天下ヲ有ツ者ハ。天下ノ主

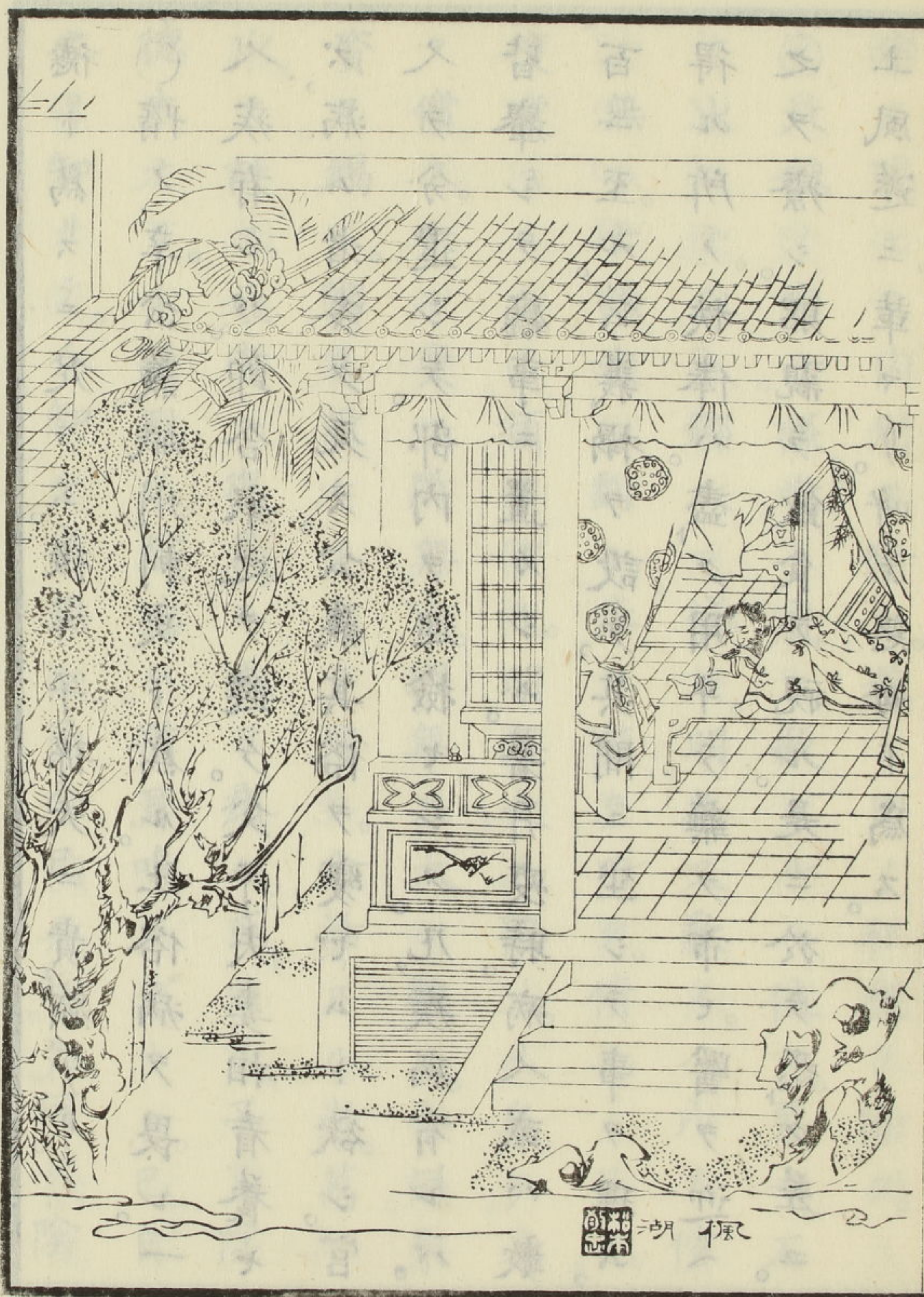
力學綱要 卷之四 〇七 富内省裁

ナリ。一國ヲ有ツ者ハ。一國ノ主ナリ。吾ハ即其主
 ナリ。棺衾ヲ以テ之ヲ葬ル。天下之ヲ聞テ曰ク。西
 伯ノ仁枯骨ニ及ブ。況ヤ人ニ於テヲヤ。
 ○漢ノ文帝。即位ノ初メ。詔シテ曰ク。春和ノ時ニ
 方テ。草木群生ノ物。皆以テ自樂ムコト有リ。而シ
 テ吾。百姓鰥寡孤獨窮困ノ人。或ハ死亡ニ陥ス。而
 シテ之ヲ省ミ憂フルコト莫シ。民ノ父母ト爲テ。
 將ニ何如ニセムトスル。其レ之ヲ振貸スル所以
 ヲ議セヨ。又曰ク。老者ハ帛ニ非レバ煖ナラズ。肉
 ニ非レバ飽ズ。今歳首ナルニ。時ニ人ヲシテ長老

ヲ存問セシメズ。又布帛酒肉ノ賜無シ。將ニ何ヲ
 以テ天下ノ子孫ヲ佐ケテ。其親ヲ孝養セシメム
 トスルヤ。今聞ク吏當ニ粥ヲ受クベキ者ニ稟ス
 ルニ。或ハ陳粟ヲ以テスト。豈老ヲ養フノ意ニ稱
 ハムヤ。具ニ令ト爲ヨ。有同請フテ縣道ニ令ス。年
 八十以上ニハ。月米肉酒ヲ賜ヒ。九十以上ニハ。帛
 絮加賜シ。物ヲ賜ヒ。當ニ粥米ヲ稟スベキ者ハ。
 長史閱視シ。丞若クハ尉致シ。九十二滿タザルハ。
 畜夫令史致シ。二千石都史ヲ遣リテ循行セシメ。
 稱ハザル者ハ之ヲ督セ。尋テ天下ニ今年田租ノ

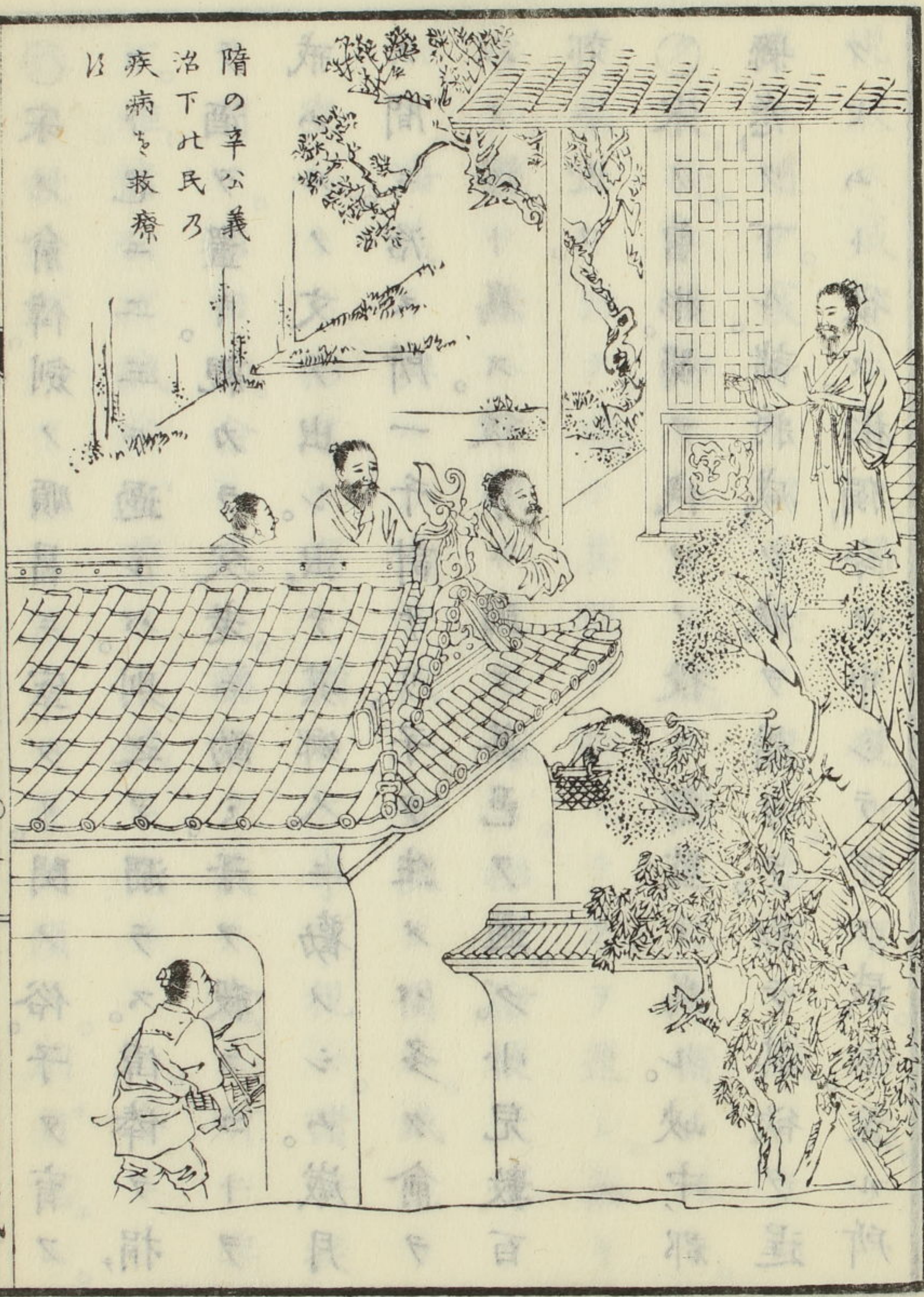
半ヲ賜ヒ。又肉刑ヲ除キ。遂ニ田ノ租稅ヲ除ク。
 ○北魏ノ李士謙^{カク}常テ歲ノ歉ナルニ值テ。粟千石
 ヲ出シテ。以テ郷人ニ貸ス。明年又歉ス。人以テ償
 ヲ無シ。士謙衆ニ對シ券ヲ焚テ曰ク。債已ニ了ル。
 復償スコトヲ須^スズ。明年大ニ熟ス。人争テ之
 ヲ償フ。一モ受ル所無シ。明年又大ニ歉ス。士謙家
 資ヲ竭シ。粥ヲ設ケテ以テ濟ス。全活スル者萬ヲ
 以テ計フ。死者ハ復爲ニ之ヲ瘞ム。或曰ク。子ノ陰
 德大ナリ。士謙曰ク。陰德ハ猶耳鳴ノゴトシ。已自
 之ヲ知リテ。人知ル者無シ。子今已ニ知ル。何ゾ陰

徳ト爲スニ足ラム。後ニ子孫大ニ貴顯ナリ。
 ○隋ノ辛公義。岷州刺史ト爲ル。土俗病ヲ畏レ。一
 人疾有レバ。即合家之ヲ避ケ。父子夫妻相看養セ
 バ。病ム者多ク死ス。公義其俗ヲ變セムト欲シ。官
 人ヲ分遣シテ。部内ヲ巡檢セシメ。凡、疾病有レバ。
 皆舉シテ廳事ニ置カシム。暑月疫時。病人或ハ數
 百ニ至ル。公義榻ヲ設ケ。其間ニ坐シテ事ヲ理ム。
 得ル所ノ秩俸ハ。盡ク用キテ藥ヲ市ヒ醫ヲ迎ヘ
 之ヲ療シ。躬親ラ飲食ヲ視ル。是ニ於テ悉ク差ユ。
 土風遂ニ革マリ。呼テ慈母ト爲ス。



湖佩

隋の辛公義
治下此民乃
疾病を救療



○宋ノ俞偉。劍ノ順昌ニ宰タリ。閔ノ俗。子ヲ育フコト已ニ二三ニ過レバ。則之ヲ溺ラス。偉俸ヲ捐テ酒ヲ置キ。親カラ父老ニ酌ミ。子ヲ殺スコトヲ戒ムルノ文ヲ出シ。出テ其郷人ニ勸メシム。歲月ノ間ニ活ス所一千計ナリ。子ヲ生メバ多ク俞ヲ以テ字ト爲ス。後事ニ因テ其邑ヲ過グ。小兒數百郊ニ迎フ。

○宋ノ曹彬。蜀ヲ伐ツノ役ニ。都監ト爲ル。峽中郡縣悉ク下ル。諸將咸ク城ヲ屠リテ。以テ其欲ヲ逞クセムト欲ス。彬獨令ヲ申シテ下ヲ戢ム。至ル所

悦服ス。成都ニ克ツ。婦女ヲ獲ル者有リ。彬悉ク一第ニ閉ヂ。竅レテ以テ食ヲ度シ。左右ヲ戒ノテ曰ク是將ニ進御セムトス。當ニ密ニ之ヲ衛ルベシ。事罷ムニ泊テ。咸ク其親ヲ訪ヒテ之ヲ還シ。無キ者ハ禮ヲ備ヘテ以テ之ヲ嫁ス。彬復檢校太傅ヲ以テ。潘美ト與ニ江南ヲ伐チ。金陵ヲ圍ム。城克ツニ垂ムトス。彬忽チ疾ト稱シテ事ヲ視ズ。諸將疾ヲ問フ。彬曰ク。余ノ疾ハ。藥石ノ能ク愈ス所ニ非ズ。惟諸公ガ誠心自誓フニ。城ニ克ツノ日。妄ニ一人ヲ殺サザルヲ以テスルコトヲ須ツ。則自愈ム。

人而無禮。雖能言。不亦禽獸之心乎。

○又曰。凡人之所以為人者。禮義也。

○又曰。人有禮則安。無禮則危。

○又曰。君子貴人而賤己。先人而後己。則民作讓。

○又曰。君子恭敬撝節退讓。以明禮。當恭敬謙遜。

○易曰。人道惡盈而好謙。謙尊而光。卑而不可踰。

○書曰。允恭克讓。

○大學曰。一家讓。一國興讓。天下歸全。入車則。

○論語曰。恭近於禮。遠恥辱也。

○又曰。君子敬而無失。與人恭而有禮。四海之內皆

兄弟也。

○又曰。不知禮。無以立也。

○又曰。能以禮讓為國乎。何有不能以禮讓為國。如禮何。

○又曰。泰伯。其可謂至德也已矣。三以天下讓。民無得而稱焉。

○天智天皇。始メ皇子ヲ以テ。蘇我。入鹿ヲ誅ス。皇極天皇其功ノ大ナルヲ以テ。位ヲ天皇ニ傳ヘムト欲ス。天皇密ニ奏シテ。孝德天皇ニ讓ル。皇極天

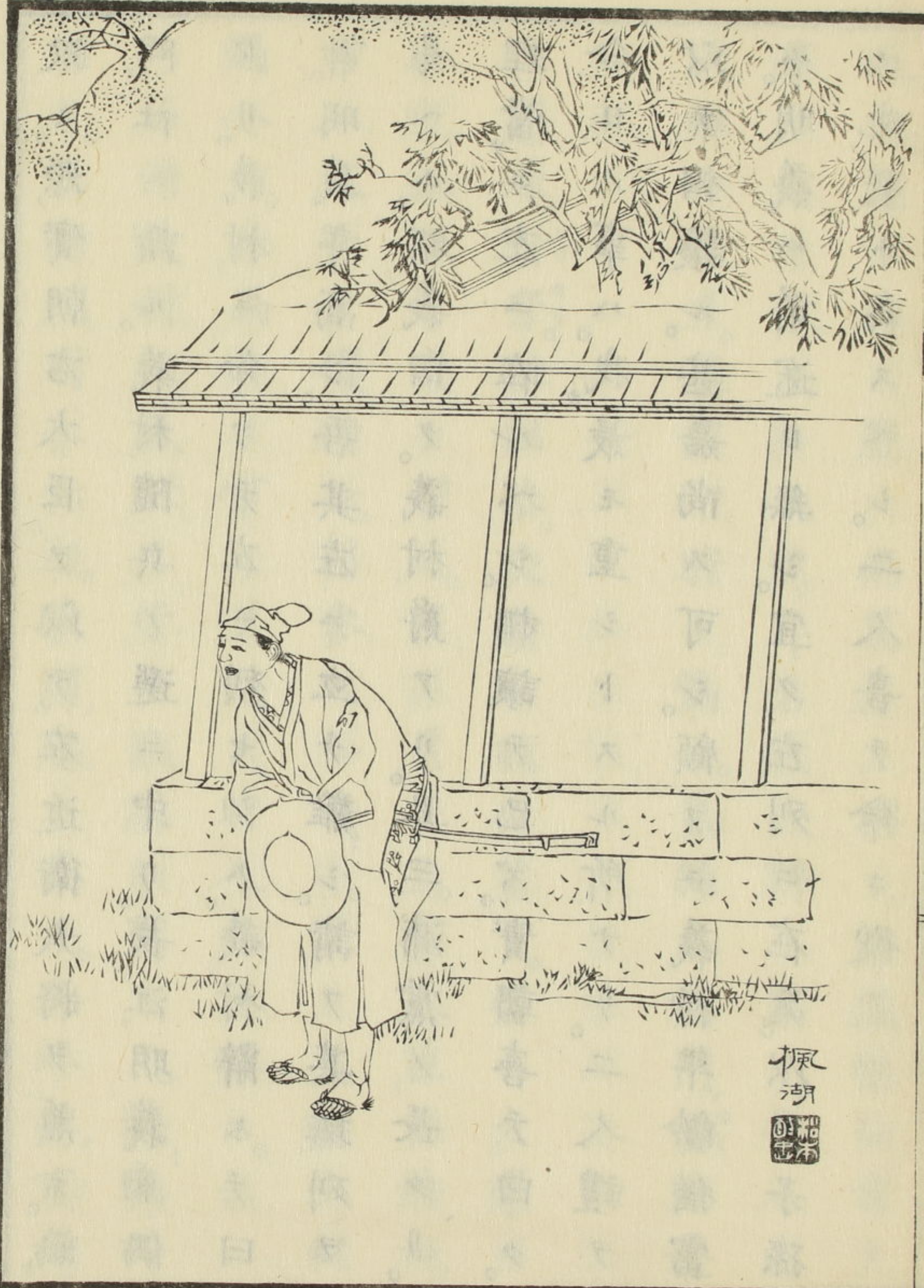
皇之ヲ嘉シ。遂ニ位ヲ孝德天皇ニ禪リ。天皇ヲ立テ皇太子ト爲シ。朝政ヲ匡輔セシム。孝德天皇崩ズ。皇極天皇再ビ踐祚ス。是ヲ齊明天皇トス。天皇仍皇太子タリ。齊明天皇崩ズ。皇太子素服シテ制ヲ稱シ。梓宮ヲ殯スルコト六年。既ニ葬リテ後祚ニ登ル。史ニ其至孝篤讓有レドモ而モ虚ガ若クシ。成セドモ而モ跡無ク。所謂ル天下ヲ有チテ與ラザル者ト雖モ。多ク讓ラザルコトヲ稱セリ。

○藤原良繩。性寛裕。忠孝ヲ以テ稱セラル。貞觀ノ初。正四位。下左大辨ト爲ル。是時右大辨南淵年

名。左中辨大江音人。班皆良繩ノ下ニ在リ。良繩私ニ人ニ謂ク曰ク。二臣或ハ碩儒者宿。或ハ朝家ノ鹽梅ナリ。吾齡ニ賢ヨリ少クシテ。職其上ニ居ル。出入進退。常ニ顔ニ汗スルコト有リ。左近衛少將藤原基經。少クシテ風骨有リ。才望甚高シ。時論皆非常器ト謂ヘリ。先帝亦其雅量ヲ重ムシ。最モ親寵セラル。今共ニ四位ヲ帶ブ。吾豈席ヲ安ムズ可クムヤ。凡少將四位ヲ帶ル者アレバ。中將職ヲ辭ス。是前賢ノ傳ル所ナリ。吾古人ノ行ト無シト雖モ。而レドモ竊ニ之ヲ慕フ。久シク賢路ヲ塞グ

我志ニ非ズ。遂ニ病篤シト稱シ。辭讓懇切。肯テ
 事ヲ省ヤズ。久クシテ。年名左大辨ト爲リ。音人右
 大辨ト爲リ。基經中將ト爲ル。良繩右衛門督ト遷
 此。藤原三守性温恭。決斷ニ明カナリ。蚤ニ大學ニ
 入リ。五經ヲ受テ習ヒ。官ヲ累ネテ。右大臣ニ至ル。
 常ニ文士ヲ優待シ。朝參スル毎ニ。途ニテ諸生ニ
 遇ヘバ。必馬ヨリ下リテ過グ。時人之美稱ス。
 〇三浦義村ハ。義澄ノ子ナリ。父ニ從ヒテ。數戰功
 有リ。左衛門尉ニ任ジ。駿河守ト爲リ。正五位下ニ

叙ス。源實朝右大臣ヲ以テ。左近衛大將ヲ兼ネ。鶴
 岡社ニ詣ル。義村隨兵ノ選ニ中リ。長江明義ト偶
 タリ。義村ニ命ジテ左ニ列セシム。義村辭シテ曰
 ク。明義年高シ。吾其左ニ立テ難シ。請フ其班列ヲ
 易ヘム。明義曰ク。義村爵アリ。且三浦黨ノ長タリ。
 理當ニ左ニ在ルベシ。相讓テ已ズ。實朝喜テ曰ク。
 今日ノ事ハ。我最モ重シトスル所ナリ。二人禮ヲ
 以テ相讓ル。甚嘉尚ス可シ。顧フニ義村年齢猶富
 ム。明義ハ前途日無シ。宜ク左列ニ在テ。以テ子孫
 ノ光榮ト爲スベシ。二人喜テ命ニ從フ。



○山内治太夫進士清三郎ハ。松平康重ノ臣ナリ。嘗テ殿戰シテ退ク。山内亂射シテ矢盡ク。敵兵山縣源四郎等之ヲ追フコト急ナリ。清三郎一矢ヲ治太夫ニ投ズ。治太夫止リ射ル。一兵ノ胸ヲ洞シテ。松樹ニ着ク。敵乃引キ去ル。山縣其矢ヲ康重ニ送リテ曰ク善射無雙ナリ。康重矢ニ清三郎ガ姓名ヲ刻スルヲ見テ。之ヲ褒セムト欲ス。清三郎曰ク。是治太夫ガ發スル所ナリ。山内ヲ召テ之ヲ問フ。曰ク。清三郎ガ發スル所ナリ。相讓リテ決セズ。康重并ニ二人ヲ褒ス。時人稱シテ。今ノ孟之反ト

爲セリ。○周ノ文王。西伯トナル。虞芮ノ君。相與ニ田ヲ爭ヒ。又クシテ平ガズ。乃皆周二質ス。其境ニ入ルニ。耕ス者ハ畔ヲ讓リ。行ク者ハ路ヲ讓ル。其邑ニ入ルニ。男女路ヲ異ニシ。斑白ノ者ハ提挈セズ。其朝ニ入ルニ。士ハ大夫トナルコトヲ讓リ。大夫ハ卿トナルコトヲ讓ル。虞芮ノ君。感ジテ自愧テ。乃相讓リ。其爭フ所ヲ以テ間田ト爲シテ退ク。○晋侯。繇上ニ蒐シテ以テ治兵シ。范匄カイヲシテ中

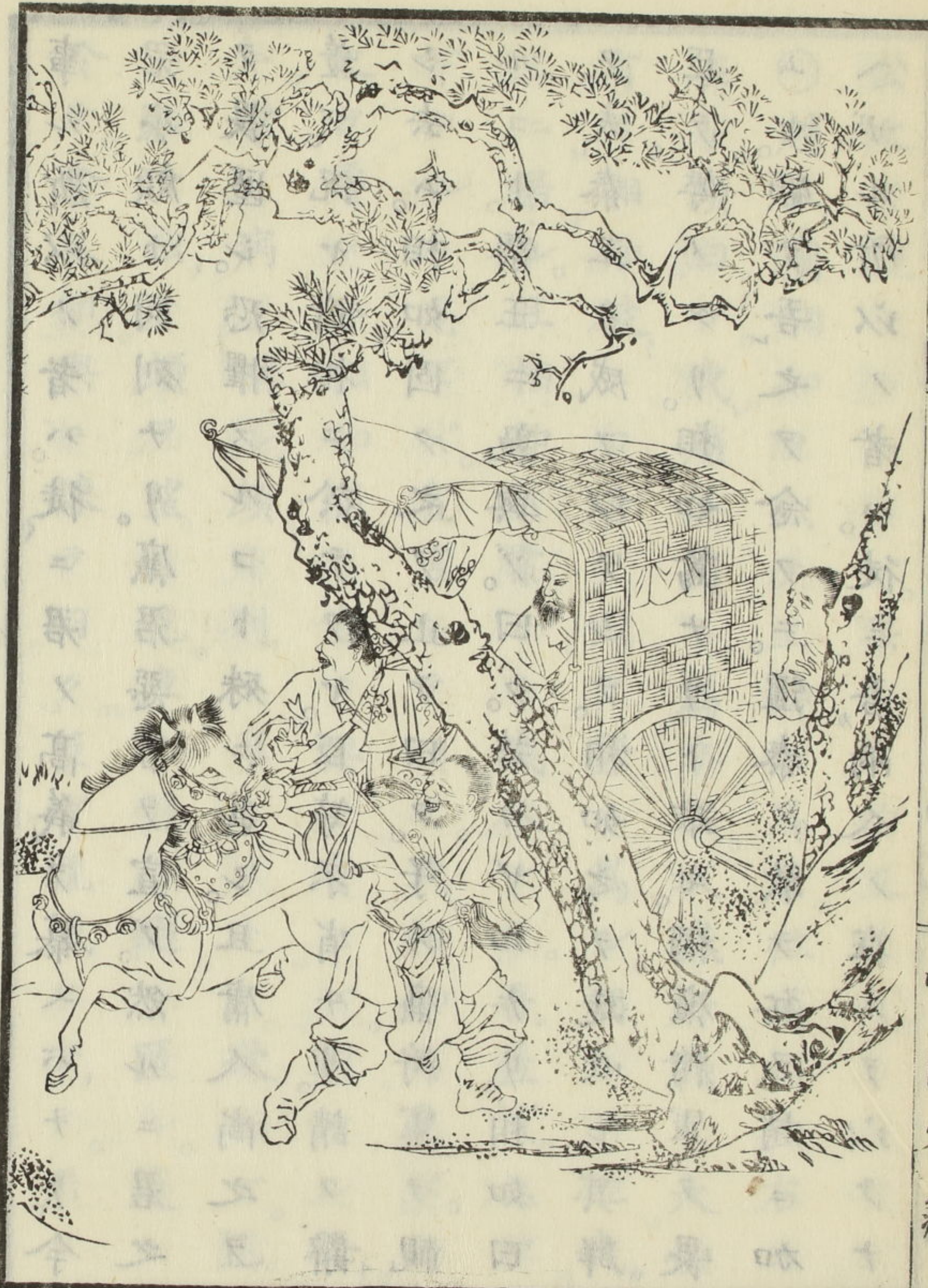
力學綱要 卷之四 〇十七 宮内省藏

軍ニ將タラシム。辭シテ曰ク。荀偃長ゼリ。昔臣知伯ニ習フ。故ニ之ニ佐タリ。臣ノ能ク賢ナルニ非ルナリ。請フ偃ニ從ハム。偃中軍ニ將タリ。荀之ニ佐タリ。韓起ヲシテ上軍ニ將タラシム。辭スルニ趙武ヲ以テス。又欒黶ニ命ズ。辭シテ曰ク。臣ハ韓起ニ如カズ。起ハ武ヲ上ニセムコトヲ願フ。君其之ヲ聽ケ。武ヲシテ上軍ニ將タラシメ。起之ニ佐タリ。欒下軍ニ將タリ。魏絳之ニ佐タリ。晉國ノ民是ヲ以テ大ニ和シ。諸侯遂ニ睦ジ。君子曰ク。讓ハ禮ノ主ナリ。范匄讓リテ。其下皆讓ル。欒黶が汰タ

ルモ。敢テ違ハザルナリ。○衛ノ靈公。夫人ト夜坐ス。車聲鱗鱗トシテ。闕ニ至テ止ル。闕ヲ過テ復聲アルヲ聞ク。公夫人ニ問テ曰ク。此誰タルヲ知ルヤ。夫人曰ク。此蘧伯玉ナラム。公曰ク。何ヲ以テ之ヲ知ル。夫人曰ク。妾聞ク。禮ニ公門ニ下ル。路馬ニ式ス。敬ヲ廣ムル所以ナリト。夫忠臣ト孝子トハ。昭昭ク為ニ節ヲ信ベズ。冥冥ノ為ニ行ヲ惰ラズ。蘧伯玉ハ賢大夫ナリ。仁ニシテ智有リ。以テ上ニ事ルニ敬メリ。此其人必闇昧ヲ以テ禮ヲ廢セザラム。是ヲ以テ之ヲ知ル。

公之ヲ視セシムレバ。果シテ伯玉ナリ。
 ○趙王。藺相如ヲ以テ上卿ト爲ス。位廉頗ノ右ニ
 在リ。頗曰ク。我。趙ノ將ト爲リテ。攻城野戰ノ大功
 有リ。相如徒。ニ口舌ヲ以テ勞ト爲シ。而シテ位我
 上ニ居ル。且相如ハ素ヨリ賤人ナリ。吾羞ヅ。之ガ
 下タルニ忍ビズ。宣言シテ曰ク。我。相如ヲ見バ。必
 之ヲ辱メム。相如聞テ肯テ與ニ會セズ。朝スル毎
 ニ。常ニ病ト稱シ。頗ト列ヲ爭フコトヲ欲セズ。已
 ニシテ出テ。頗ヲ望ミ見。車ヲ引テ避ケ匿ル。是ニ
 於テ。舍人相與ニ諫テ曰ク。臣ガ親戚ヲ去テ。君ニ

事ル所以ノ者ハ。徒ニ君ノ高義ヲ慕ヘバナリ。今
 君廉頗ト同列ナリ。廉君惡言ヲ宣ブ。然ルニ君之
 ヲ畏匿シ。恐懼スルコト殊ニ甚シ。且庸人尚之ヲ
 羞ヅ。況ヤ將相ニ於テヤ。臣等不肖ナリ。請フ辭
 シ去ム。相如固ク之ヲ止テ曰ク。子ノ廉將軍ヲ視
 ルコト。秦王ニ孰與ゾ。曰ク。若カザルナリ。相如曰
 ク。夫。秦王ノ威ヲ以テシテ。相如之ヲ廷叱シ。其群
 臣ヲ辱メタリ。相如驚ナリト雖モ。獨廉將軍ヲ畏
 ムヤ。顧テ吾之ヲ念フニ。彊秦ノ敢テ兵ヲ趙ニ加
 ヘザル所以ノ者ハ。徒ニ吾兩人ノ在ルヲ以テナ



蘭相如車
 と還一
 廉頗以避

楓湖
 印
 印

リ。今兩虎共ニ鬪ハバ。其勢俱ニ生キズ。吾^カ此ヲ爲
ス所以ノ者ハ。國家ノ急ヲ先ニシテ。私讎ヲ後ニ
スルナリ。頗之ヲ聞キ。肉袒シテ荊ヲ負ヒ。賓客ニ
因テ。相如ノ門ニ至リ。罪ヲ謝シテ曰ク。鄙賤ノ人。
將軍ノ之ヲ寛クスルノ此ニ至ルコトヲ知ラズ。
卒ニ相與ニ驩テ。刎頸ノ交ヲ爲ス。

○明ノ博士黃彥清。市ニ閑歩ス。兩兒ノ棗ヲ食ヒ。
退讓禮有ルヲ見。其傍ニ坐シテ之ヲ觀ル。食シ畢
テ。一棗ヲ餘ス。幼ナル者。其長ナル者ニ遜ル。長ナ
ル者受ケズ。推讓良久シ。幼者ニ遇フ。舉テ以テ之

ニ授ク。彥清歎ジテ曰ク。何ゾ風ノ厚キヤ。明日朝
ニ入テ之ヲ奏ス。



人所以ノ者ハ國家ノ急ニ先ニシテ私利ヲ後ニシテ
大ニナリ。贈之ヲ聞キ内祖シテ前ヲ貴ニ賓客ニ
因テ相如ク門ニ至リ。軍ノ謝シテ曰ク。鄙賤ノ人
將軍ノ之ヲ寬メタルハ此ニ至ルコトヲ知ラズ
卒ニ相與ニ贈ハ勿願フ交ヲ為ス
○明ノ博士貴族流布ニ別少ク其ノ貴ヲ食
是禮禮有ルノ見其例ニ生シテ之ヲ觀ル食之具
六人食之儀奏メタル者其長ナル者ニ遊ル長
ニ難受意前禮禮良良曰ク。所者風俗。皇奉テ限リ。時

儉素第十一

○人各貴賤貧富ノ分アリ。故ニ其分ニ隨テ。財
用ヲ節シ。儉素ヲ守ルハ。天道ヲ敬シ。人福ヲ
享ル所以ナリ。苟モ意ヲ肆ニシテ奢侈ニ趨
ケバ。必殃咎ヲ致ス。甚キハ則身ヲ喪ヒ家ヲ
亡スニ至ル。慎マザルベケムヤ。若夫徒ニ財
利ヲ愛シ。當ニ散ズベクシテ散ゼザルハ吝
ナリ。儉ニ非ズ。儉吝ノ別亦當ニ審ニスベキ
所ナリ。

○易曰。天地節而四時成。節以制度。不傷財。不害民。

○書曰慎乃儉德惟懷永圖

○又曰克儉于家

○又曰恭儉惟德

○禮曰國奢則示之以儉國儉則示之以禮

○論語曰節用而愛人

○又曰菲飲食而致孝乎鬼神惡衣服而致美乎黻

冕卑宮室而盡力乎溝洫

○又曰麻冕禮也今也純儉吾從衆

○孟子曰賢君必恭儉禮下取於民有制

○後三條天皇專ラ儉素ヲ尚ブ。御扇檜柄藍紙ヲ

用キ。青魚頭ヲ炙リ。胡椒ヲ塗リ。以テ御膳ニ充テ。

營造務テ質朴ニ從フ。後冷泉天皇ノ末年。風俗華

侈。下吏ノ車ト雖モ。之ヲ飾ルニ金ヲ以テス。天皇

之ヲ革メムト欲ス。即位ノ初。石清水ニ幸ス。都人

士女。出テ鹵簿ヲ觀ル。車ニ金飾スル者有リ。天皇

爲ニ鑿輿ヲ駐メ。命ジテ盡ク剔ギ去ラシム。後賀

茂ニ幸ス。絶テ金ヲ以テ車ヲ飾ル者無シ。俗遂ニ

淳素ニ反ル。

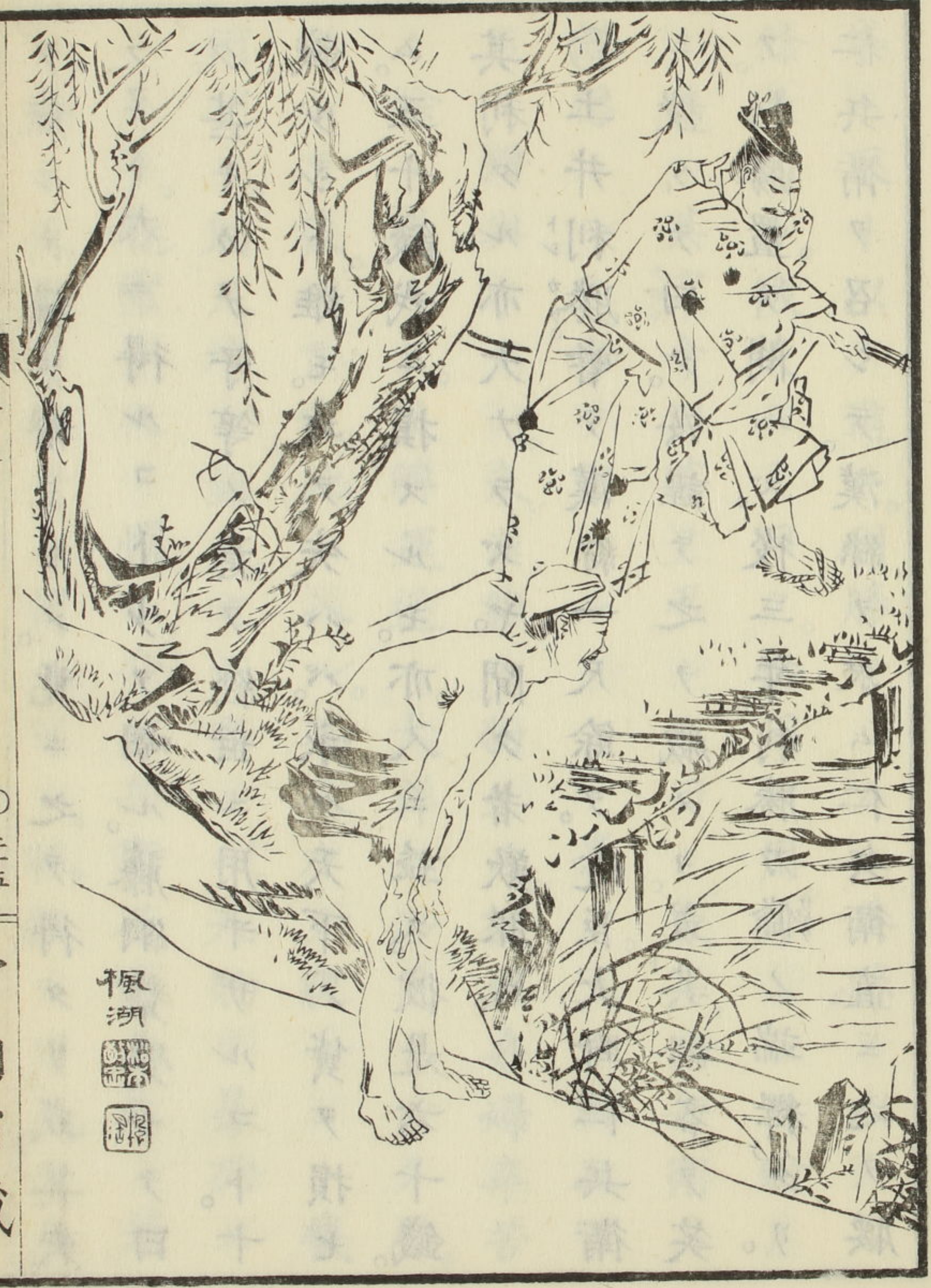
○北條時賴ノ母安達氏。松下禪尼ト稱ス。嘗テ時

頼ノ爲ニ食ヲ設ク。兄義景來リテ治具ヲ助ク。尼
 方ニ手ヅカラ小紙ヲ裁シテ。紙格ヲ糊補ス。義景
 人ニ命ジテ之ヲ爲サシメムコトヲ請フ。尼顧ミ
 ス。義景曰ク。之ヲ補フハ。之ヲ新ニスルノ勞ヲ省
 クニ若カズ。尼曰ク。我豈之ヲ知ラザラムヤ。凡物小
 破有レバ。宜ク之ヲ修補スベシ。兒輩ヲシテ此意
 ヲ知ラシメムト欲スルノミ。時頼亦性儉素。食ニ
 味ヲ重ネズ。一夕燕居ス。會族父大佛オヤノブ宣時ノトキ來ル。時
 頼手ヅカラ酒ヲ舉テ曰ク。獨飲ムハ。卿ト之ヲ共
 ニスルノ樂シキニ若カズ。深夜下物無キヲ奈何セ

ム。宣時即起テ廚ニ入り。紙燭ヲ照シ。殘醬ヲ索テ
 之ヲ侑メ。終夜對飲シ。歡ヲ盡シテ止ム。其淡薄此
 ノ如シ。

○青砥藤網。北條時頼及ビ時宗ニ歷仕シ。食邑數
 十所。家財ニ富メリ。身ヲ立ルコト清約ニシテ。衣
 食麤惡。刀室髣セズ。出ル毎ニ一人木刀ヲ持シテ
 後ニ從フ。官ヲ授ケラルルニ及テ。應ニ衛府太刀
 ヲ佩ブベシ。藤網裝飾ヲ爲サズ。只弦袋ヲ加ルノ
 ミ。嘗テ夜行テ滑川ヲ過ギ。誤テ十錢ヲ水ニ墜ス。
 藤網遽ニ從者ニ命ジ。五十錢ヲ以テ炬ヲ買ヒ。水

青砥藤網錢を滑川に撈らむ



楓湖
印

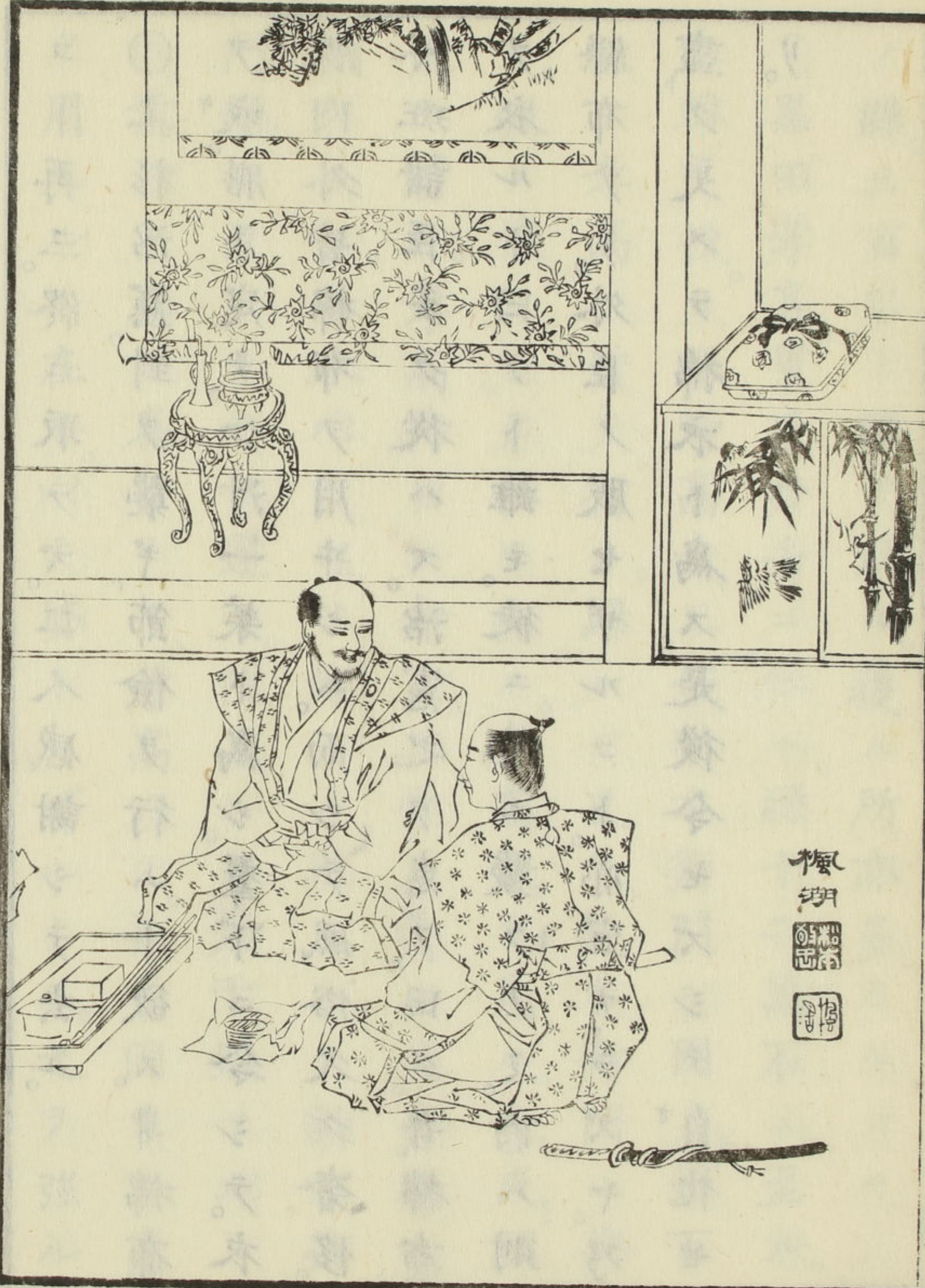
ヲ照シテ錢ヲ撈ラシメ。竟ニ之ヲ得タリ。或其失
フコト大ニ得ルコト少ヲ嘲ル。藤綱輦感シテ曰
ク。甚キカナ子等ノ意ヲ經世ニ用キザルコト。十
錢少シト雖モ。之ヲ失ハバ。永ク天下ノ貨ヲ損セ
ム。五十錢我ニ損スルモ。亦人ニ益ス。彼是六十錢。
其利タル亦大ナラズヤ。聞ク者歎服ス。

○土井利勝嘗テ漢絲一尺餘ヲ。近臣大野仁兵衛
ニ授ケテ曰ク。汝謹テ之ヲ藏メヨ。或其鄙吝ヲ笑
フ。利勝置テ問ハズ。後三年。利勝刀條ノ端釋タリ。
仁兵衛ヲ召シテ。漢絲ヲ求ム。仁兵衛直ニ之ヲ腰

袋ニ取り以テ進ム。利勝手ヅカラ其絲ヲ以テ刀
條ヲ約シ。微笑シテ曰ク。無用ノ用。今ニシテ驗ア
リ。遂ニ其宰寺田某ヲ召シテ曰ク。吾甚仁兵衛ノ
謹愨ニシテ。命ヲ重ズルコトヲ嘉ス。宜ク祿三百
石ヲ増與スベシ。夫漢絲ノ物タル。彼國桑婦辛苦
ノ餘ニ成リテ。展轉運送シ。大洋ノ渺茫タルヲ歷。
而シテ後。始テ我地ニ入ル。其人カヲ經ルコト幾
何ゾヤ。則尺寸ト雖モ。之ヲ棄ルハ。天物ヲ暴殄ス
ルナリ。吾常ニ之ヲ懼ル。今仁兵衛乃能ク此ノ若
シ。善ク天ニ事ル者ト謂フ可シ。輒戲テ曰ク。一尺

ノ絲。三百石ノ祿ヲ取ル。獲ル所亦多カラズヤ。
 ○黒田孝高。豊臣秀吉ニ仕ヘ。祿十二萬石ニ至ル。
 征韓ノ役。日根野高吉。三好新右衛門ニ因リ。銀百
 枚ヲ孝高ニ借テ行ク。歸ルニ及テ。新右衛門ト與
 ニ。銀ヲ懷ニシテ往キ謝ス。孝高出テ見ル。會ク或ト鯛
 魚ヲ饋ル。孝高侍臣ニ命ジ。其骨ヲ羹トシテ酒ヲ
 侑メシム。二人心ニ之ヲ鄙シム。既ニシテ新右衛
 門銀ヲ出シテ之ヲ還ス。附スルニ若干銀ヲ以テ
 ス。意以テ息ト為スナリ。孝高曰ク。吾意固ヨリ急
 ヲ周スルニ在リ。以テ貸トセザルナリ。之ヲ強ル

コト再三。終ニ取ラズ。二人感謝シテ去ル。
 ○上杉治憲。封ヲ襲ギ。節儉ヲ行ムト欲ス。身棉布
 ヲ衣。膳ヲ定テ。一汁一菜ト為シ。羣下ニ令シテ。衣
 服内外皆棉布ヲ用中シム。而シテ風俗久ク奢侈。
 外班諸臣多ク從ハズ。治憲之ヲ患フ。曰ク。吾棉布
 ヲ衣ルト曰フト雖モ。徒ニ外ニ襲フノミ。内ハ則
 縑布ナリ。外臣ノ服セザルコト。亦宜ナラズヤ。乃
 盡ク更メテ棉衣ト為ス。是後令セズシテ自化セ
 リ。



梅 湖 印



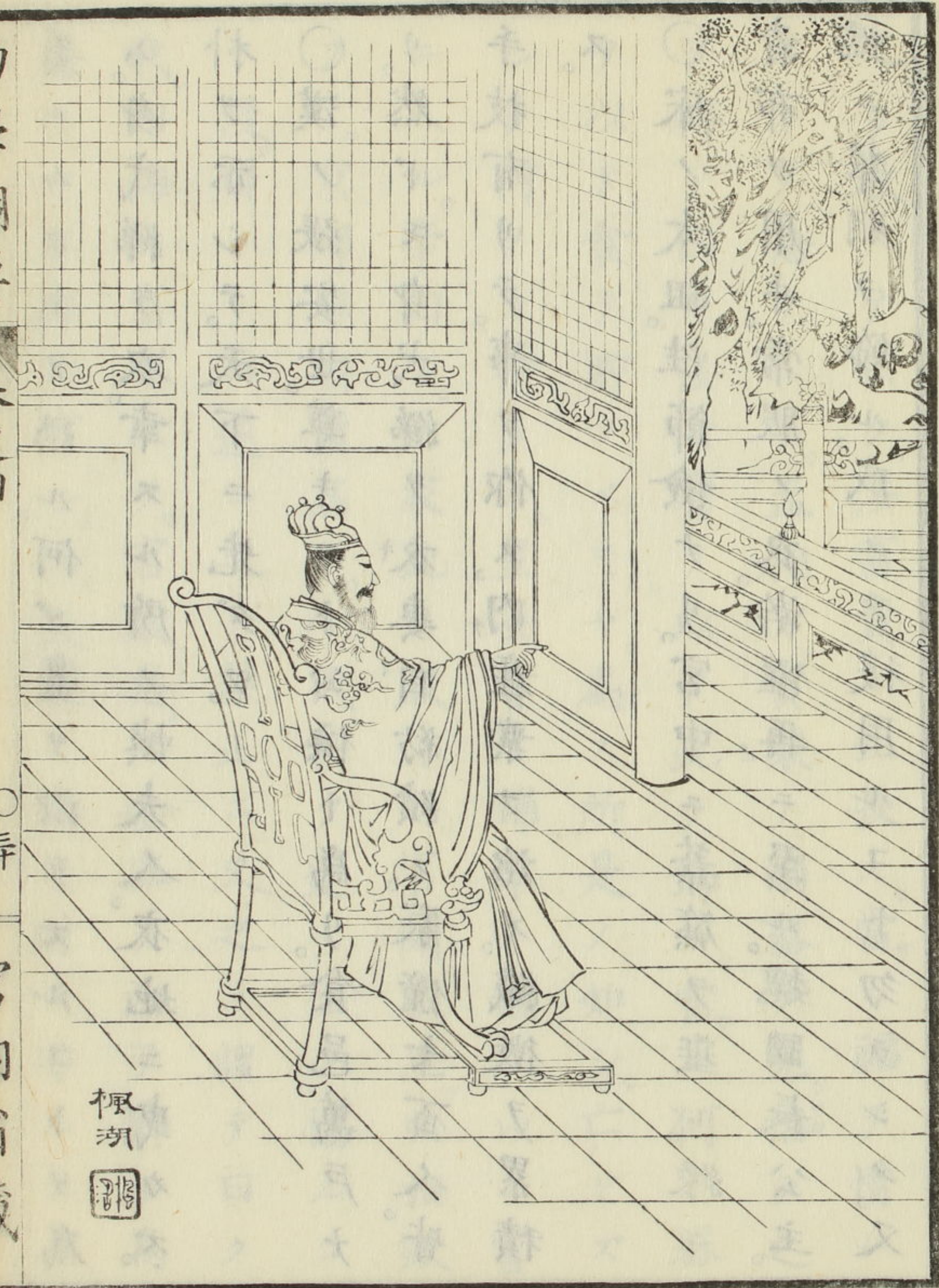
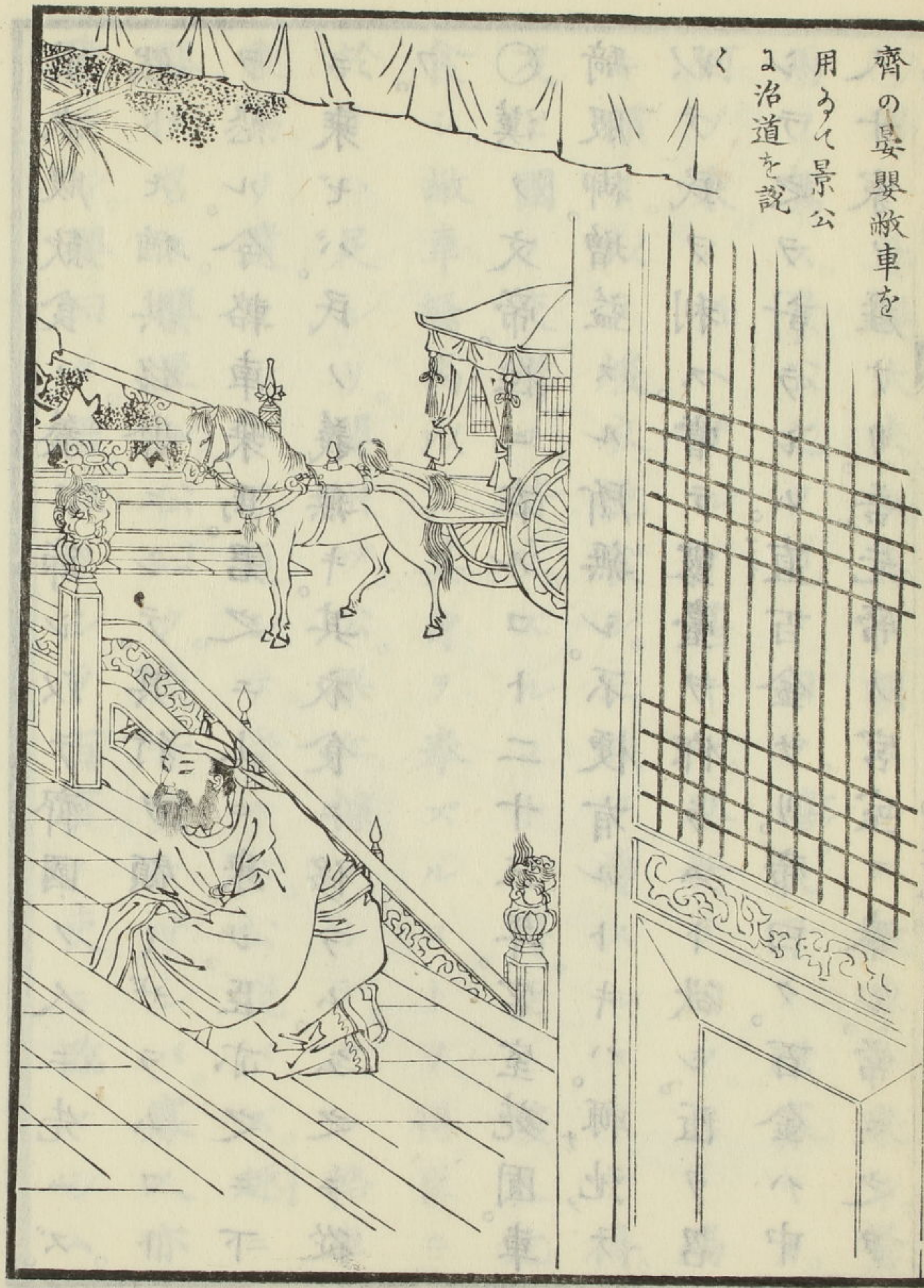
黒田孝高魚
骨の羹を客
み羞めて返
金を受てば

○齊ノ晏嬰。大夫ト爲リ。朝スルニ敝車ニ乗ジ。駑馬ヲ駕ス。景公之ヲ見テ曰ク。嘻。夫子ノ祿寡キカ。何ゾ乗ノ任ヘザルノ甚キヤ。嬰對テ曰ク。君ノ賜ニ頼リ。以テ煖衣飽食シ。三族ヲ壽スルコトヲ得。及ビ國ノ交游モ。皆生ズルコトヲ得。臣モ煖衣飽食シ。敝車駑馬。以テ其身ヲ奉ズルコトヲ得。臣ニ於テハ足レリ。嬰出ヅ。公。梁丘據ヲシテ。之ニ輅車乗馬ヲ遺ラシム。三返シテ受ケズ。公悦バズ。趣ニ嬰ヲ召ス。嬰至ル。公曰ク。夫子受ケザレバ。寡人亦乘ラジ。嬰曰ク。君。臣ヲシテ百官ノ吏ニ臨マシム。

其衣服飲食ノ養ヲ節シ。以テ齊國ノ人ニ先ムズ。然ドモ猶其侈靡ニシテ。其行ヲ顧ミザラムコトヲ恐ル。今輅車乗馬。君之ニ上ニ乗ジ。臣亦之ニ下ニ乗ゼバ。民ノ義無キ。其衣食ニ侈ラム。公之ニ從フ。

○漢ノ文帝。位ニ在ルコト二十三年。宮室苑囿。車騎服御。增益スル所無シ。不便有ルトキハ。輒弛テ以テ民ヲ利ス。嘗テ露臺ヲ作ラムト欲シ。匠ヲ召シテ之ヲ計ラシム。直百金ナリ。帝曰ク。百金ハ中人十家ノ産ナリ。吾先帝ノ宮室ヲ奉ジ。常ニ之ヲ

齊の晏嬰敝車を
用ゐる景公
は治道を説
く



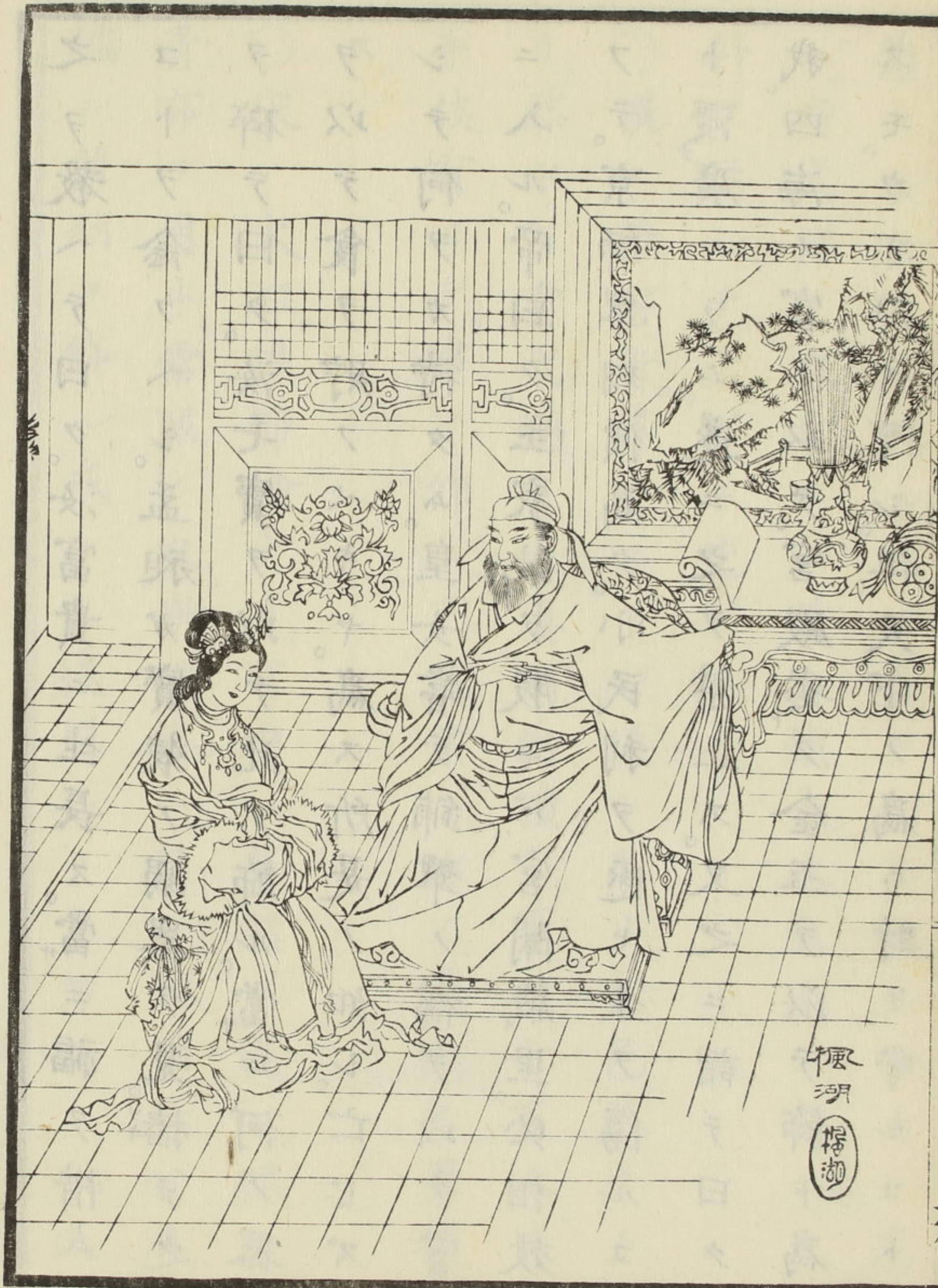
楓湖
印

羞メムコトヲ恐ル。何ゾ臺ヲ以テスルコトヲ為
ム。身弋縹ヲ衣。幸スル所ノ慎夫人。衣地ニ曳カズ。
朴ヲ示シテ。天下ニ先ダツ。

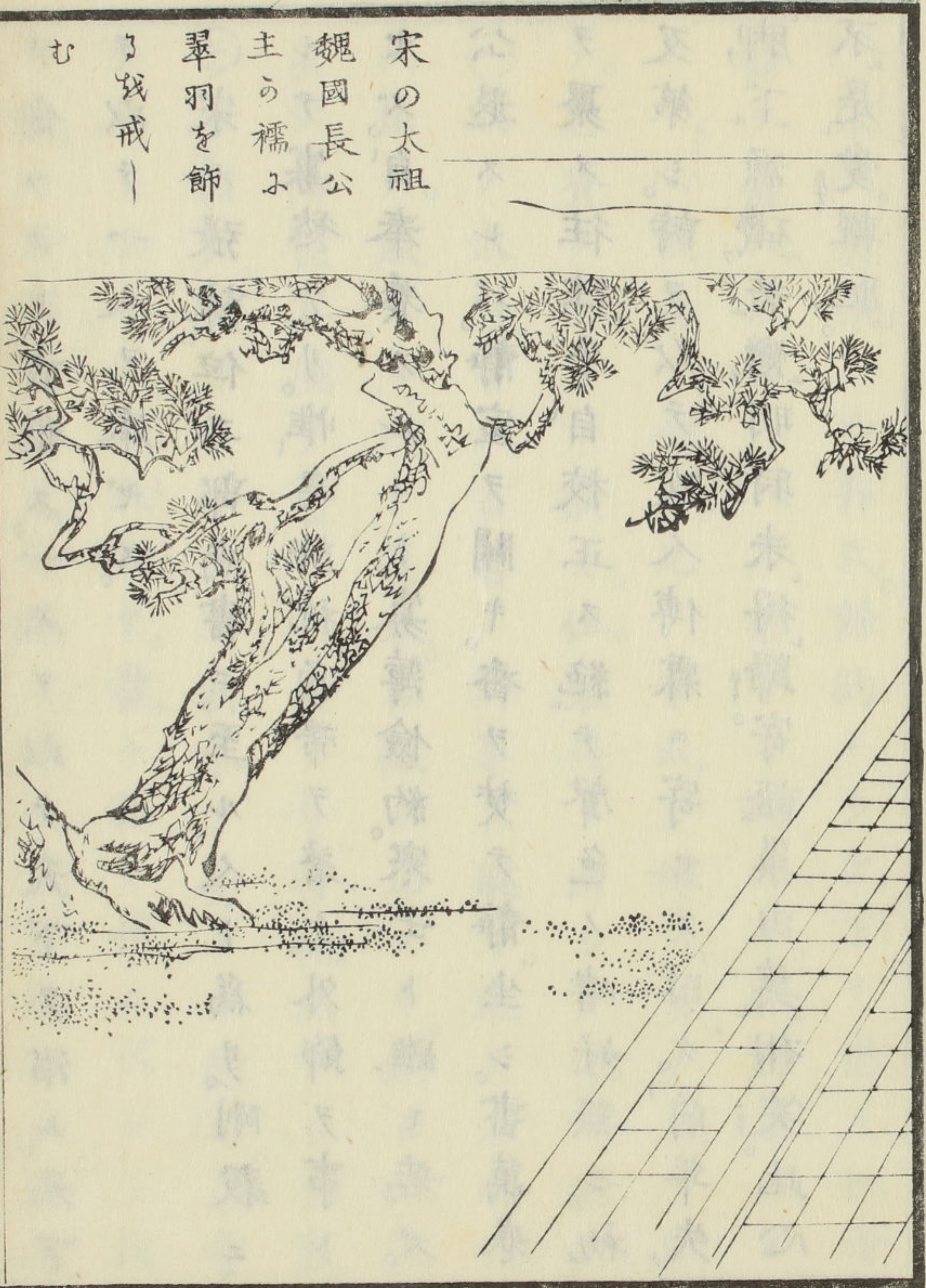
○漢ノ張安世。尊キコト公侯ト為リ。食邑萬戸ナ
リ。然ドモ身弋縹ヲ衣。妻自紡績ス。家僮七百人。皆
手技有リテ。事ヲ作ス。内産業ヲ治メ。纖微ヲ累積
ス。

○宋ノ太祖。性節儉ナリ。宮中ニ葦簾ヲ垂レ。緑ニ
青布ヲ用キ。常服ノ衣。澣濯再ニ至ル。魏國長公主。
襦ニ翠羽ヲ飾ル。戒メテ復用ルコト勿ラシメ。又

之ヲ教ヘテ曰ク。汝富貴ニ生長ス。當ニ福ヲ惜ム
コトヲ念フヘシ。孟昶ガ寶裝ノ溺器ヲ見。搆テ之
ヲ碎テ曰ク。汝七寶ヲ以テ此ヲ飾ル。當ニ何ノ器
ヲ以テ食ヲ貯フベキヤ。為ス所是ノ如シ。亡ビズ
シテ何ヲカ待タム。皇女嘗テ鋪翠ノ襦ヲ以テ宮
ニ入ル。帝曰ク。主家此ヲ服セバ。宮闈戚里。必相效
フテ。京師翠羽價高ク。小民利ヲ逐ヒ生ヲ傷ルコ
ト浸マラム。遂ニ之ヲ禁止ス。又之ニ謂テ曰ク
我四海ノ富ヲ以テ。宮殿悉ク金玉ヲ以テ飾ト為
スモ。カ亦辨ズ可シ。但天下ノ為ニ財ヲ守ルコト



楓湖 梅湖



宋の太祖
魏國長公
主の襦ふ
翠羽を飾
る戎
む

ヲ念フノミ。古稱ス。一人ヲ以テ天下ヲ治ム。天下ヲ以テ一人ヲ奉ゼズ。

○宋ノ張詠。位工部尚書ニ至ル。人ト爲リ。剛毅ニシテ寡慾ナリ。惟、皂絁袍角帶ヲ著ケ。外飾ヲ事トセズ。自奉養スルコト。寡薄儉約。寒士ト雖モ若ズ。公退スレバ。靜室ヲ闢キ。香ヲ焚テ靜坐シ。書萬卷ヲ聚メ。往往手自校正ス。絶テ聲色ノ嗜好無シ。初及第シ。詩ヲ以テ友人傅霖ニ寄セテ曰ク。前年失脚。下漁磯。苦戀明時。未得歸。寄語巢由。莫相笑。此心不是愛輕肥。

○宋ノ真宗ノ后郭氏。謙約ニシテ下ヲ惠ミ。性奢靡ヲ惡ム。族屬ノ入テ禁中ニ謁スル。服飾華侈ナレバ。必戒勗ヲ加フ。兄ノ子出テ嫁ス。貧ナルヲ以テ。恩賚ヲ祈ムト欲ス。但、裝具ヲ出シテ之ニ給ス。○明ノ太宗。嘗テ百官ノ奏事ヲ聽キ。退テ右順門ニ坐ス。服スル所ノ裏衣。袖敝レ垢ツキ。納レテ復出シ。侍臣其徳ヲ贊スル者アリ。帝慨然トシテ歎シテ曰ク。朕日三十タビ新衣ヲ易フト。雖モ未嘗テ無シトセズ。但、自念フ。當ニ福ヲ惜ムベシト。故ニ毎ニ澣濯シテ更ニ進メシム。昔、皇妣躬ラ故衣

